
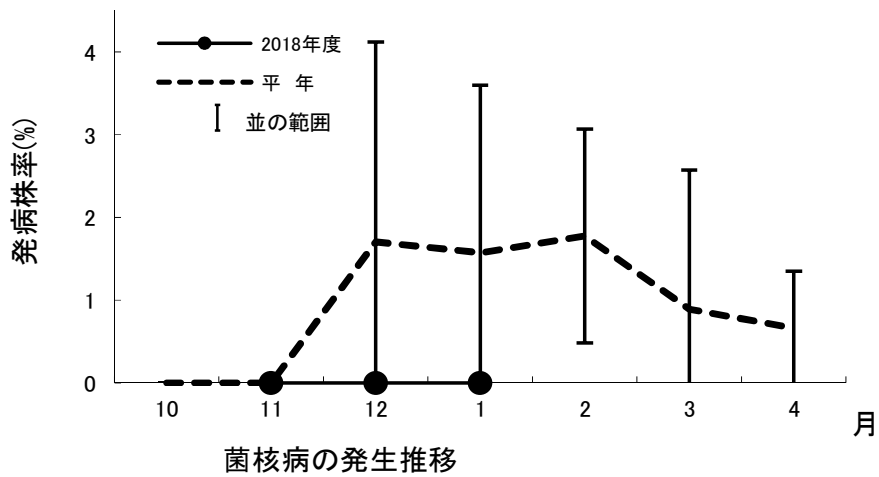



作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	① 菌核病		
1月の発生量(現況)	(発生なし)並		
2月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

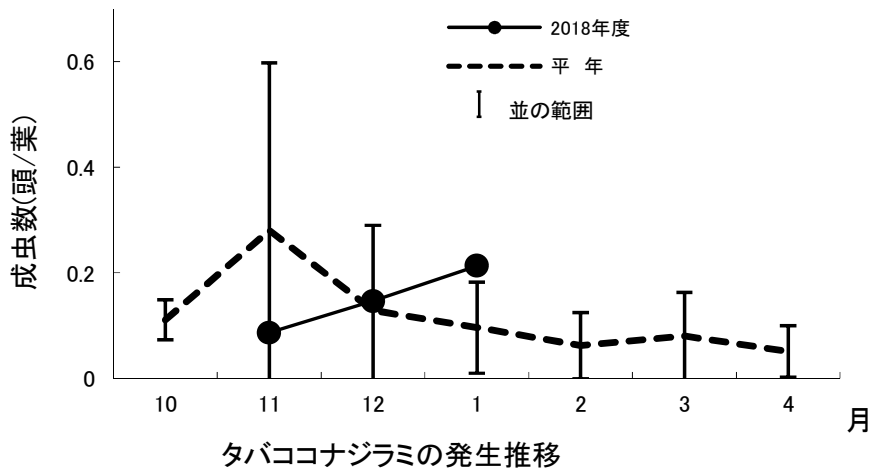


防除のポイント

- ・発病部位は、菌核が形成される前に早めに除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外へ持ち出し処分する。
- ・多湿条件下で発生しやすいので、老葉病葉は取り除き透光通風をよくする。


作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ		
1月の発生量(現況)	やや多		
2月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

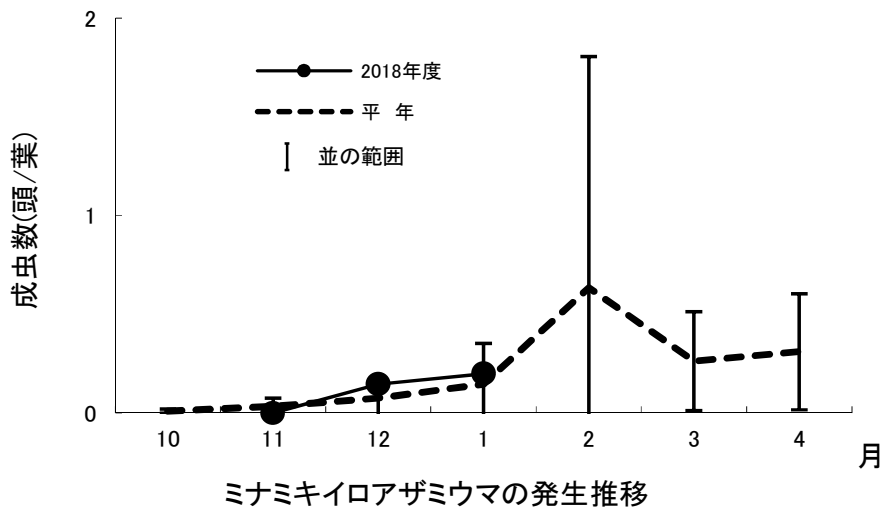


防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草は発生源になるので除去する。
- ・本種はさやの白化を引き起こすので、出入り口の防虫ネットを二重にするなどして、ほ場内への侵入を防止する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
また、薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や微生物農薬を使用する。

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		
1月の発生量(現況)	並		
2月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



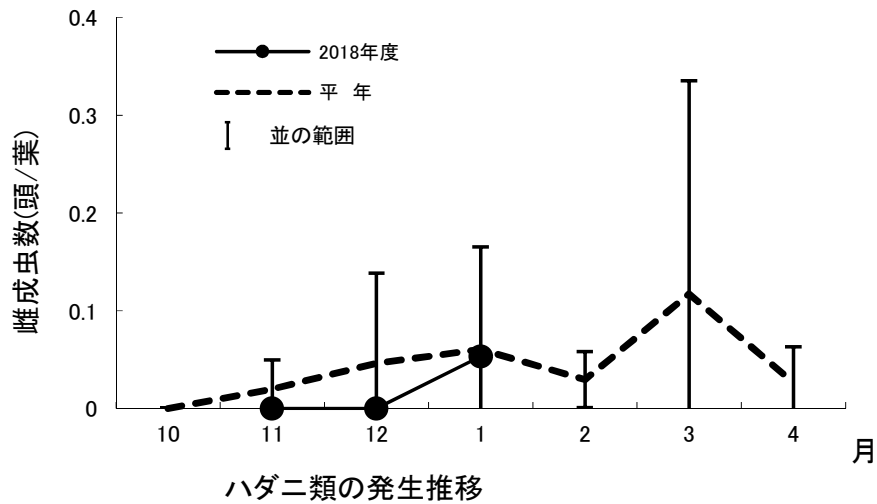
- ・一部ほ場で多発生した。

防除のポイント

- ・ほ場の出入口には二重カーテンなどを設置し、本種の侵入を防ぐ。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。


作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハダニ類		
1月の発生量(現況)	並		
2月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

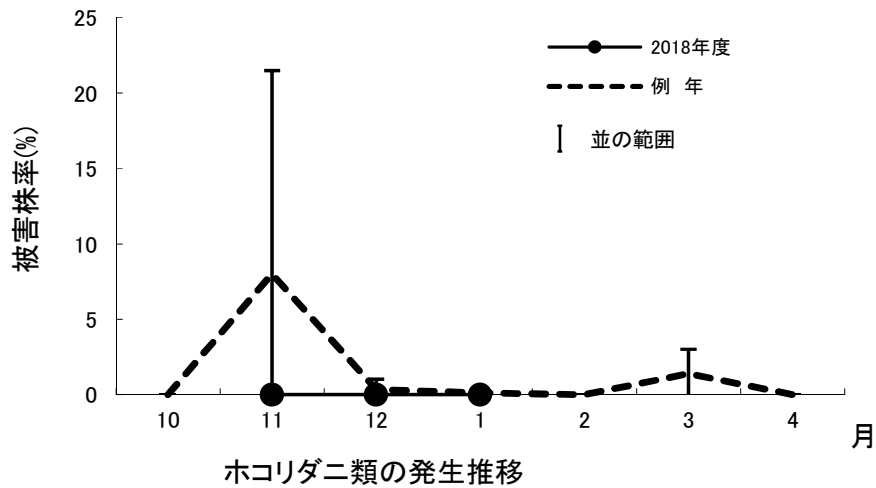


防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	ホコリダニ類		
1月の発生量(現況)	(発生なし)並		
2月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	被害株率の例年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)



防除のポイント

- ・ 20℃での卵から成虫までの発育期間は13～17日と短く、短期間のうちに高密度になりやすいため、早期発見・防除に努める。
- ・ 薬剤が到達しにくい生長点付近や未展開葉に潜っているため、薬散は葉裏へ丁寧に行う。
- ・ ほ場内外に寄主植物(主にナス科雑草)が無いよう除草に努める。